

福岡大学医学会ニュース

福岡大学医学会

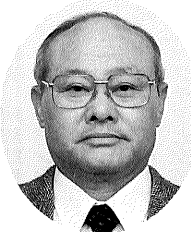
福岡市城南区七隈

福岡大学医学部内

印刷 福岡印刷株式会社

福岡市博多区東那珂一丁目10-15

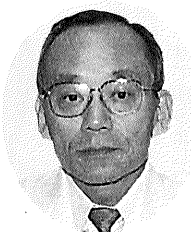
医学部・病院の開設二十五周年の記念行事を行うにあたり、福岡大学医学会メンバーの方々に同慶の賀意をおくりますとともに、医学部・病院の現状と較べながら、将来への発展計画を考えてみます。



私立医大最後となった福大医学部は政令福岡市の誕生と時を同じくして、一四七名の第一回生をむかえました。二、三回生が入学した頃の学生諸君は、一部には首をかしげるような学生もいましたが、全体的に優れた素質であったことは事実で、また若かった教師達の未熟な教育技術にもかかわらず、懸命な勉学をしていました。その証に、二、三

実行委員として(衛生学、黒木(生化学)、森園(筑紫耳鼻科)、赤羽(寄生虫、岡(脳外科)、佐々木(内科)、大慈弥(形成外科)および川崎(事務部)が就任し、平成八年九月十七日より準備に着手した。

記念行事は、平成九年九月二十七日(土曜)にアクロス福岡と福岡国際ホールとで行



う。アクロス福岡で市民向けシンポジウムと医療展示、ゲストによる講演会、同窓会総会と記念式典を行ったあと、国際ホールに移動して祝賀会を行う予定である。

回生だけが全国平均を上回る医師国家試験合格率をあげています。その後、近隣の諸県に国立医科大学が相次いで開設され、さらには、福岡大学医学部の学納金が高騰したこともあって、受験生全体の学

り、臨床医学総論のようなコア・カリキュラムを設定するなどして、学生、職員の努力により、全学年の進級率、国

つくり返ったり、威張りまくったりすることはありません。『実るほど、頭の垂れる稲穂かな』

の部門が予定されていますが、発がんに関する動きをもつウイルスに関する部門が本学にありません。早急な増設がのぞまれます。研究教育とその成果を評価する大学院医学研究科が設立されて二〇年、五

政策の変化にともなった新しい病院の増設です。一〇年後には、福大キャンパスを通る城南・茶山線の地下鉄3号線の乗り入れや、高速外環状線の開通が完成し、福大を取り巻く交通環境が一変してしま

います。この新しい、都市環境に対応した二十一世紀の病院が必要になります。そうであれば、現在、新しい医療ニーズに応じて、相ついで新

抗できないのです。『新しいブドウ酒は、新しい革袋に。』

福岡大学医学部・病院が

歩いてきた二十五

医学部長 三好 萬佐行

業質の低下という憂き目を見ることになりました。それでも、入学試験に適性試験(MCAT)を導入したり、医進課程での医学勉学のモチベーションを高めるためアリー

二一五三名の卒業生のうち国試不合格者はわずかに十四名で、新設医大のなかでは驚異的に少ない数です。大変喜ばしいことですが、医師国試に合格したり、一つ二つの医

センター増設について、今年の春、文部省のハイテク・リサーチ研究助成に福大医学部が選

増設にくわえ、近いうちに管理・事務棟の建設が予定されています。しかし、福大医学部・病院にとって、もっとも重要なことは、医療の技術や

福岡大・医学部創設に掲げた、地域医療への貢献をはたすには、コ・メディカルの薬剤、看護、検査、リハビリ、福祉、医療工学等の分野で実

動する医療人の育成・供給が期待されています。総合大学の利点を活かし、関連の学部

の協力をえて、福岡大学ならではのコ・メディカル学部・学科の創設・充実が可能です。最後にになりましたが、平成九年十二月には医学・医療担当副学長が任命されることにな

福岡大学医学部・病院創立25周年

新世紀に向けて

飛翔する福岡大学医学部

日時 平成九年九月二十七日(土)

場所 アクロス福岡および福岡国際ホール

シンポジウムとポスターでは、「ここまで進んだ切らない手術・QOLの向上を目指す」という主題で最新の医療技術を市民に紹介した

からの質問にも答えた。ポスターでは多種多様な治療をわかりやすく展示し、ビデオなども利用して市民にゆっく

り見て頂くつもりである。複数の科で実施している手技に

記念式典と祝賀会では功労

福岡大学医学部・病院

開設二十五周年記念行事について

実行委員長 有吉 朝美

シンポジウムでは、①内視鏡による消化器疾患の治療(八尾教授)、②腹腔鏡・胸腔鏡による治療(白日教授)、③心臓疾患の血管内治療(熊谷講師)に内容を絞り、市民

ついで、分担をお願いし、担当した手技について福大代表として展示して頂く予定である。

ゲストによる講演会として中村桂子氏(生命誌研究館副

者の表彰など一応話題に登ったが、市民サービスを目玉に掲げていることからお手盛りでは具合が悪かろうと表彰は止めることにした。

記念出版も計画を進めてお

医学部 平成9年度行事予定

平成9年(1997年)	
4月3日	福岡大学入学式
4月18日	第91回医師国家試験合格発表
5月21日	福岡大学創立記念日
7月19日~8月12日	第49回西日本医科大学体育大会
7月23日	医学会第20回総会および第37回例会
9月27日	医学部25周年記念行事式典
10月18日	第24回医学部慰霊祭
10月31日~11月5日	医学祭・七隈祭
11月26日	医学部父母後援会総会
平成10年(1998年)	
2月11日~12日	医学部入学試験
2月中旬	医学会第38回例会
3月21日~22日	第92回医師国家試験(発表4月22日)
3月25日	福岡大学卒業式・医学部謝恩会

福岡大学医学会

第20回総会および第37回例会

日時 平成九年七月二十三日(水)午後五時から
場所 福岡大学医学部臨床大講堂

内容

I 第20回総会

議事

(1) 報告事項

(2) 役員改選

(3) 平成8年度会計報告ならびに平成9年度予算(案)

(4) その他

II 第37回例会

講演

1、座長 山田 達夫 教授

「インフルエンザAウイルスの中枢神経毒性」

講演者 高橋三津雄 講師

2、座長 満留 昭久 教授

「発作性夜間血色素尿症の発症機序」

講演者 廣瀬 伸一 助教授

3、座長 池田 靖洋 教授

「内視鏡下外科手術の近未来」

講演者 志村 英生 助教授

4、座長 畠 博 教授

「厚生科学研究費について」

講演者 宮崎 元伸 助教授

(衛生学)

新 風

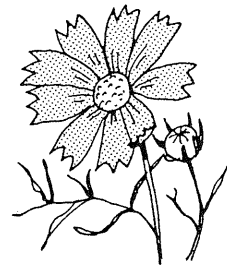
平成 9 年 4 月 1 日付で本学へ赴任、または昇格された方に自己紹介をしていただきました。

薬理学教授

桂木 猛



私は三年前にも本ニュースで薬理学教授として自己紹介させて頂きましたが、今回は古川教授の御退職に伴い後任の主任教授に昇格し、再度筆をとりました。昭和五十三年、本医学部の大学院開設に伴って薬理学教室の講師として着任以来二十二年の歳月が流れ、その間、薬理学を取りまく環境も大きく変わって来ましたが、当時はまだ、薬理学らしい特色のある研究、例えば α や β 受容体などは、薬理



学者によって考え出された受容体として広くこの学会の研究の中心をなしてまいりました。しかし昨今の遺伝子研究法の目覚ましい進歩により、短時間にあらゆる受容体の蛋白質構造が明らかにされるに至り、今や、この研究の主流は薬理から医学、薬学系を越え、理学、工学、農学に移り、発展してまいります。特に最近、生理活性物質の新発見といううなトピックスに対する研究者の反応は非常に素早く、研究領域のボーダレス化が進み、その結果どんな学会でも同じテーマの報告が見られるようになり、当然、競争も激しく研究にスピードが求められ、これからは組織力と資金力を持つ研究グループが益々優位になる傾向が強まるようです。そこで、地方の

公衆衛生学教授

守山 正樹



学生実習の時の経験が縁で一九七五年に東北大学を卒業後、公衆衛生学の大学院に進みました。三か月目に教室の調査に同行し、南米ボリビアの日本人移住地で生活と健康についてのフィールドワークに参加しました。この時体験した「人の健康の背景にある環境を知ること」の面白さと困難さが、その後の私の研究に大きな影響を与えています。大学院を卒業後、米国テキサス大学に留学し二年間人類学を学びました。八一年に長崎大学に赴任し、最初の五年間は公衆衛生学教室において、皮下脂肪分布からの成人病危険度の予測、尿中物質からの小児の発育/健康の予測、草刈り機の振動の健康影響評価、小動物を用いた環境ストレスの評価、などフィールドワークから動物実験にわたる様々なテーマを手がけました。八六年に長崎大学の衛生学教室に移った直後から始めたのが「炭坑閉山後の一離島における人口減少と住民の健康評価」の研究です。他分野の研究者と共同研究を進める中で、社会医学におけるフィールドワークの重要性、中でも対象者との対話の重要性を大学院以来、再認識しました。以後、地域住民が理解しにくい健康結果を分かりやすく表示するための「手書き顔グラフィックの開発」を手始めに、健康・疾病に関する対話(情報の認識・表現・伝達を含む)を研究しています。対話支援ツールの開発は、それを用いた健康評価法や健康教育法の

内科・健康管理学教授

山田 達夫



大学への留学以後の私の主要な研究課題は Parkinson 病等の錐体外路系疾患と α -synuclein 病などの高齢者にみられる神経難病を対象としたもので、免疫学、分子病理学、分子生物学のアプローチによる早期診断法の確立と病因の解明であります。福岡大学医学部は内科の再編成の中にあり、私は専門であり、また神経内科学はもとより従来からの健康管理学を発展させる責務を負っています。あるいはさらに私の配下に内科のもう一部門が増える可能性さえあります。私はこの数年間は教室の基礎固めの時期と考えておりますが、特に健康管理科に属していた教室員には総合診療医として全体的病院体制のなかで活躍していただくよう日夜具体的な戦略作りを行っています。福岡大学医学部の特徴から primary care 医の養成が中心であり、私が、私も神経科学研究にも全力で取り組む所存であります。特に Alzheimer、Parkinson 病の病因解明に向け、我々の仮説検証に精を出したいと思っています。九州には私の高校、大学の同窓会の諸先輩がおられ、すでに何人かの先輩から指導を賜っておりますが、福岡大学医学部の諸先生には更に一層の指導・鞭撻をこの紙面をお借りしてお願い申し上げる次第であります。

小児科学教授

満留 昭久



昭和四十九年九州大学を卒業、小児科学教室にはいり、永山徳郎教授、つづいて合屋長英教授のもとで小児神経学を学びました。当時の神経グループには竹下研三先生(鳥取大学神経小児科教授)、黒川徹先生(国立療養所西別府病院院長)、黒木良和先生(神奈川こども医療センター部長)、高嶋幸男先生(国立精神神経センター部長)など優秀な先輩が多く楽しく小児神経学の研究が出来ました。昭和五十年に福岡大学に赴任いたしました。松津維一郎教授、小田嶺一教授の指導のもと新しい小児科学教室の基礎づくりの一生懸命でした。研究は九大時代から小児神経学、特に臨床神経生理学を中心にやってきましたが、今はさらさらこれを発展させ、さらに若い人の協力を得て分子遺伝学的な方面にも研究を進めたいと思っております。福岡大学小児科はオールラウンドな臨床力を持ち、包括的医療の出来る小児科医の育成を教室の伝統としてきました。そのために今後も卒後教育のシステムの改良と充実をはかりたいと考えております。現在急患センターなどの行政からの要請や、市中病院からの小児科医の要請などが多く、教室のマンパワーではこれらに充分応えられずおります。若い人たちが私どもの教室にたくさんはいてこれられることを強く願っております。今後とも指導よろしくお願い申し上げます。

教室紹介

薬理学教室

福岡大学医学部薬理学教室の現状を御報告致します。猿渡祥子(が)が当教室と共同実験を行っております。

研究のテーマは、薬理学

先生の後任に桂木猛教授が主任教授に昇格されました。

古川先生は二十三年間の永きにわたり教室を主宰されてこられましたので、現在

までの所、教室内のスタッフは、そのままで、阿部正義助教授、榊米和司任講師、守下秀治助手、宮本康

嗣助手の計五人の教育スタッフと山田博美教育技術職員から構成されております。

また四人の大学院生(為末敏、藤木園、山田勝博、牧野郁子)、二人の研究生

(桜田二友、麻生博史)が在籍し、更に福岡大学薬学

部の大学院生二人(小谷護、猿渡祥子)が当教室と共同実験を行っております。

研究のテーマは、薬理学

先生の後任に桂木猛教授が主任教授に昇格されました。

古川先生は二十三年間の永きにわたり教室を主宰されてこられましたので、現在

までの所、教室内のスタッフは、そのままで、阿部正義助教授、榊米和司任講師、守下秀治助手、宮本康

嗣助手の計五人の教育スタッフと山田博美教育技術職員から構成されております。

また四人の大学院生(為末敏、藤木園、山田勝博、牧野郁子)、二人の研究生

(桜田二友、麻生博史)が在籍し、更に福岡大学薬学

生に対する和漢薬の作用機序の解明と多岐に渡ります。また、宮本先生は内科第一反応における α_1 反応における α_1 反応および α_1 反応の各役割を、麻生先生は癌細胞のフォスホオリパーゼ A2 抑制機序の解明を目指しています。また、救命救急センターの岡本育助手は、当教室で敗血症時の肺・肝障害におけるヒスタミン・ロイコトリエンの関与をヒスタミン H1 受容体ノックアウトマウスを用いて研究しています。教室の主な行事としては、歓迎会、忘年会以外に、一年一回の教室旅行があり、本年度は一月十五日の成人の日を利用して一泊二日で湯布院の旅行に出かけ、夜の宴會では色々なゲームその他で楽しい一時を過ごしました。

以上のように、桂木教授の下、新体制で教育・研究に教室一丸となって取り組んでいます。(文責 阿部 正義)

平成九年四月一日付で福岡大学医学部内科・健康管理学講座の教授として着任いたしました。私は昭和四十九年に東京医科歯科大学医学部を卒業し、山梨県立病院で各科研修を行い、その後の順天堂大学と千葉大学では平山忠造現千葉大名教授の指導の下で数多くの神経内科疾患の診療を行いつつ神経難病にしばしば認められる不随意運動の研究を行い、一時期外出していた東北大学では難病治療の立場からリハビリテーションの修得と Kinesiology を研究しました。千葉大に再び戻った後は主として Parkinson 病の認知障害を解明すべく電気生理学的手法を取り入れた神経心理学的研究や神経難病の疫学調査などに取り組みました。

三年間の British Columbia

大学への留学以後の私の主要な研究課題は Parkinson 病等の錐体外路系疾患と α -synuclein 病などの高齢者にみられる神経難病を対象としたもので、免疫学、分子病理学、分子生物学のアプローチによる早期診断法の確立と病因の解明であります。福岡大学医学部は内科の再編成の中にあり、私は専門であり、また神経内科学はもとより従来からの健康管理学を発展させる責務を負っています。

あるいはさらに私の配下に内科のもう一部門が増える可能性さえあります。私はこの数年間は教室の基礎固めの時期と考えておりますが、特に健康管理科に属していた教室員には総合診療医として全体的病院体制のなかで活躍していただくよう日夜具体的な戦略作りを行っています。

福岡大学医学部の特徴から primary care 医の養成が中心であり、私が、私も神経科学研究にも全力で取り組む所存であります。特に Alzheimer、Parkinson 病の病因解明に向け、我々の仮説検証に精を出したいと思っています。

九州には私の高校、大学の同窓会の諸先輩がおられ、すでに何人かの先輩から指導を賜っておりますが、福岡大学医学部の諸先生には更に一層の指導・鞭撻をこの紙面をお借りしてお願い申し上げる次第であります。

産科婦人科学教授

瓦林達比古

昭和四十九年に九州大学を卒業して産婦人科入局。九大病院での一年間の臨床研修の後、大学院に入局し、主として電気生理学的手法による子宮平滑筋の生理・薬理学的研究を学びました。三年間の研究の後、博士論文審査に合格し、大学院在籍のまま二年間

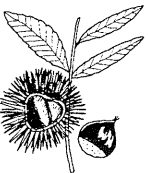
米国北東部のブラウン大学で

研究員として同様の研究を続けました。帰国後は九大、九州労災病院、佐賀医大の各産婦人科を経て、平成三年四月より本学に赴任しています。

この間、佐賀医大には病院開院以来九年余り勤務しましたが、学生教育ではアーリーエクスポージャー、クリニカルエクスポージャー、チューター制度、M6 の選択コースなど、診療面では病院のコンピュター導入の際の一連の流れ(少々の混乱も含めまして)なども体験してきました。現在本学でも同様のシステムが進行中であり、過去の事を思い出しながら従事しています。

昭和五十年に福岡大学に赴任いたしました。松津維一郎教授、小田嶺一教授の指導のもと新しい小児科学教室の基礎づくりの一生懸命でした。研究は九大時代から小児神経学、特に臨床神経生理学を中心にやってきましたが、今はさらさらこれを発展させ、さらに若い人の協力を得て分子遺伝学的な方面にも研究を進めたいと思っております。

福岡大学小児科はオールラウンドな臨床力を持ち、包括的医療の出来る小児科医の育成を教室の伝統としてきました。そのために今後も卒後教育のシステムの改良と充実をはかりたいと考えております。現在急患センターなどの行政からの要請や、市中病院からの小児科医の要請などが多く、教室のマンパワーではこれらに充分応えられずおります。若い人たちが私どもの教室にたくさんはいてこれられることを強く願っております。今後とも指導よろしくお願い申し上げます。



教 室 紹 介

放 射 線 医 学

放射線医学の分野、特に画像診断学の目を見張るような発展により、画像診断機器は著しく高度化し、複雑化している。放射線診断は大いなる変貌を遂げつつある。

当院放射線科の現状について述べる。

1 腹部診断部門

血管造影撮影装置 3 台 (SIEMENS MULTISTAR T.O.P) を駆使して診断に引き続き各種インターベンショナルラジオロジー (IVR) を施行している。年間800件 (うち600件は IVR) の腹部血管造影を施行、中でも最も多いのが肝細胞癌に対する肝動脈塞栓術 (約300件) である。その他消化管出血、腹腔内出血などの各種動脈性出血、静脈瘤治療を行っている。最近では、気道、食道、胆道、大静脈系などの閉塞症例に対するバルーン拡張術やステント挿入も施行している。

2 神経放射線部門

CT 装置 3 台 (TCT900S super helix) 最新鋭 MRI 装置 2 台 (VISART 1.5T progress, GYROSCAN TIO-NT 1.0T) を用いた 3D-CT、MRI Angio 等に工夫を加え、新しい画像診断法の開発に取り組んでおり、脳動脈瘤等の血管性病変の描出能の向上が得られている。

3 放射線治療部門

リニャク (NELAC 1018-D) テレコバルト (RCR 120-C1) RALS (RAL303) 月平均800件以上の放射線治療を行っており、最近では IVR に放射線照射を組み合わせた集学的治療も各科と協力して施行している。

4 GI 部門

上部下部消化管検査の特に術前精密検査 (年間約700件中80%以上) を一手に担っている。

5 核医学部門

シンチカメラ 2 台 (ZLC 75, SNC500R) 解析コンピューター (SCINCIPAC2400) で月250件の検査を施行しており、最新鋭機の年内導入も決定している。

6 超音波部門

現在 3 台 (YOKOGAWA U-SONIC RT8000, ALOKA SSD-2000, SONO-LAYER SSA-260A) で 1 日30名以上の検査をおこなっている。院内外からのローテーターを受け入れ、卒後教育に貢献している。放射線科の領域は専門化され、かつ細分化されてきており、これにこたえるべく医局員を国内外の専門病院へ派遣し、最先端の技術、idea を導入し発展させる。

以上放射線科の現状について述べた。

次の方は、平成九年三月三十一日付で退職されました。

長い間、ありがとうございました。

古川 達雄 教授 (薬理学)

重松 峻夫 教授 (公衆衛生学)

奥村 恂 教授 (内科学第二)

小田 禎一 教授 (小児科学)

白川 光一 教授 (産科婦人科学)

葉 山泉 助教授 (整形外科)

仁 隆信 講師 (内科第二)

川谷 大治 講師 (精神神経科)

中村 豊 講師 (健康管理科)

九州電力へ

生理学第一教授

坂本 康二



私は昭和三十八年に鹿児島大学理学部物理学を卒業し、すぐに九大医学部第二生理学教室の助手に採用されました。最初の研究テーマは、心筋細胞膜の基本的な電気生理学的性質の解明でしたので、子犬を用いて心筋細胞膜の電気的特性を報告し、これが学位論文となり、それなりの評価を受けました。

昭和三十八年一月より九大理学部物理学を卒業し、すぐに九大医学部第二生理学教室の助手に採用されました。最初の研究テーマは、心筋細胞膜の基本的な電気生理学的性質の解明でしたので、子犬を用いて心筋細胞膜の電気的特性を報告し、これが学位論文となり、それなりの評価を受けました。

歯学部口腔生理学教室に移ってからは、平滑筋細胞の自動性発現機序の研究を行いました。昭和四十六年二月一日より英国ケンブリッジ大学薬理学教室に留学し、脾臓のブドウ糖によるインシュリン分泌機序について、電気生理学的研究に没頭し、それなりの成果をあげて昭和四十八年二月に再び九大歯学部に戻りました。帰国後先輩の勧めもあり、同年九月一日付で福岡大学医学部第一生理学教室の助教に就任して以来今日に至っています。福岡大学に在職してからは、心筋細胞膜の電気的特性の解明、心筋細胞の活動電位、平滑筋細胞の活動電位に非常に良く類似した活動電位が記録されるので、この活

昭和三十七年、九州大学医学部を卒業、その後九大第二内科に入局し、糖尿病研究室で約10年間を過ごしました。その間には、ウィスコンシン大学、ミネソタ大学と三年間留学しました。帰国後、福岡大学医学部の開設時より採用され、今日に至っています。二十数年間には、糖尿病患者数も急増し、生活習慣と強く結びついた疾患として、社会への影響も、年毎に深刻になって来ましたが、この慢性病の克服には早期発見、早期治療によってうまく飼育慣らし、高齢になっても仲良くすることが必要だと思います。その為には、若い時から、健康管理に意を用い、自らの心身と病気のことを正確に知っておくことが大変重要であると思っております。健康センターで、若者の健康管理をするようになり、時宜をえたりがいのある仕事であると感謝している次第です。健康管理センターは、大学の中心に位置しておりながら、学生にはあまり知られて

医学部ホームページ作成中！
福岡大学ホームページ
(http://www.fukuoka-u.ac.jp/)
からもリンクできる予定ということです。お楽しみに。

内科学第一教授
福岡大学健康増進センター所長
浅野 喬



昭和三十年に岡山大学を卒業しました。旧制高校入学時に一年得をしたので二十三歳でした。同級生は九十名いて、そのうち十三名が教授になりましたが、そのほとんどは定年退職を迎えております。卒業後今でも元気に活躍の聖路加病院の日野原重明先生の下でインターンをし、三十一年に岡山大学大学院に入学、三十三年からコンベンシア大学とアルバート・アインスタイン医大でレジデントとフェローをしました。三十七年に帰国、三十八年に大学院を卒業後、国立福岡病院産婦人科医長をしながら、岡山大学医学部講師を兼任、四十八年に本学に赴任、以後二十四年間を助教授として過ごしてきました。この間、幸い国試対策の産婦人科チャートが毎年一万冊以上売れているので、大学の研修を含めてたびたび外国に出張することができました。

研究の面では一九五九年以来、世界の周産期医学の誕生と発展と共に生きて来たことができた。一九六六年日本で初の子宮内胎児輸血をしたのも昨目のように感じられます。これから定年までの残された五年間にはわが福岡大学に総合周産期センターを誘致するのが最後の夢です。今年が初心に返って、多くの



産科婦人科学教授
金岡 毅



衛生学助教授
宮崎 元伸

『親心・子心 (16)』
臨床検査医学 助手
野元 淳子

福岡大学の医学部を卒業してはや十一年が過ぎ、まさかとは思っていましたが、学生実習の指導をする立場になってしまいました。医師になりたての頃には十年目の先生というのとはとても偉い人のように思っていたのですが、実際自分がそうなるなどとは頼りない未熟者であることに不安を感じています。

私が新米医師として勤務しはじめた頃は先輩の後からついてまわり、問診、診察、注射、点滴の仕方を見ながら「医師」というのは技術者である事に気づいてはいたが、相変わらず患者さんへの接し方など口をきいてくれませんでした。少しづつ治療に対しては協力してもらえようになったものの病態は悪化、血圧も昇圧剤をどんなに使っても四〇台という日が続き、二週間ほど泊り込みで治療にあたっていました。意識がなくなる前にひとこと「ありがとうございます」と言われて亡くなりました。

現在、インフォームドコンセントの必要性が強く叫ばれるようになっていますが、前述の患者さんに対して行った対処方法で本当によかったのか、私は今でもよくわかりません。

医療にたずさわる職場ではこのようなことはよくあることと思われ、私も忘れませんが、心の修練も忘れないように、自分の医療に、学生の指導に今後とも努力したいと思っています。

論文名「剖検例における潜伏性前立腺癌と管内異型過形成の病理学的検討」

教室便り

海外留学・出張

- 平成 8 年11月以降分 ①留学または出張先国名
②期間 (予定も含む) ③目的
- 井上 真澄**〔生理学第一〕
①アメリカ ②'97.5.19～'98.5.18
③副腎髄質細胞における分泌機構の解明
- 永井 哲**〔外科学第一〕
①アメリカ ②'96.12～'98.12
③臨床膝ラ氏島移植に関する研究
- 吉武 裕明**〔外科学第二〕
①アメリカ ②'96.4.～
③消化器癌基礎研究
- 篠原 徹雄**〔外科学第二〕
①アメリカ ②'96.10～
③消化器癌基礎研究
- 平塚 昌文**〔外科学第二〕
①アメリカ ②'95.10～ ③肺移植基礎研究
- 米田 敏**〔外科学第二〕
①ドイツ ②'96.11～ ③呼吸器癌基礎研究
- 張 敬範**〔整形外科科学〕
①アメリカ ②'96.11～'97.10
③Biologic Resurfacing of Articular Cartilage Deffects Using Allograft Cartilage Transplantation Grown in Vitro
- 江本 玄**〔整形外科科学〕
①アメリカ ②'97.2～'98.5
③人工膝関節について
- 檜田 伸一**〔整形外科科学〕
①アメリカ ②'97.2～'98.1 ③手の手術
- 山道 光雲**〔眼科学〕
①アメリカ ②'97.4～'98.3
- 諸見里安史**〔眼科学〕
①アメリカ ②'97.4～'98.3
- 原澤 一郎**〔麻酔科学〕
①アメリカ ②'96.7～'99.6
③带状疱疹後神経痛の臨床共同研究、Neuropathic pain の基礎研究

海外からの留学

- 平成 8 年11月以降分 (3 か月間以上)
①出身地での所属 (職名) ②期間 ③目的
- 王 立興** (Wang Lixing) 〔内科学第二〕
①中国徐州医学院 (助手)
②'97.4.1～'98.3.31
③レニン・アンジオテンシン系と心血管病
- 欧 加福** (Ou JiaFu) 〔内科学第二〕
①中国福建医科大学 (助手)
②'97.4.1～'98.3.31
③高脂血症の遺伝子治療に関する研究
- 趙 和榮** 〔内科学 (健康管理学)〕
①中国吉林省延辺医学院附属病院神経内科主医師 ②'97.4.1～'98.3.31
③脳血管障害の臨床的研究
- 曲 紅** 〔内科学 (健康管理学)〕
②'97.4.1～'98.3.31
③多発性脳梗塞の病態

海外からの来訪

- 平成 8 年11月以降分 ①所属 (役職)
③来訪の目的 (講演題目) ④来訪日
- Kee-Won, KIM** 〔薬理学〕
①Chonbuk National University Medical School, Associate Professor
②総合研究所主催研究会; Opioid receptors in human cerebral cortex; Ligand binding and biological roles.
③'97.3.1
- Rafael Lamothe-Argumedo** 〔寄生虫学〕
①メキシコ自治大主任研究員・教授
②平成 8 年度文部省科学研究 (国際学術研究) 「メキシコ新型皮膚爬行症に関する研究」による招聘
③'96.11.26～12.8
- Silvia Pas Dias Camacho** 〔寄生虫学〕
①シロアナ自治大教授
②平成 8 年度文部省科学研究 (国際学術研究) 「メキシコ新型皮膚爬行症に関する研究」による招聘 ③'96.11.26～12.8

- Christopher C. Cordess, M. D.** 〔精神医学〕
①ロンドン大学チャリングクロス&ウェストミンスター医学校名誉上級医師
②疾病行動の精神分析
③'97.1.31
- Itiro Shirakawa, M. D.** 〔精神医学〕
①サンパウロ連邦大学
②第 4 回多文化間精神医学会
特別講演「日本から帰った日系ブラジル人の精神障害」
③'97.2.7～8
- Eng-Kung Yeh, M. D.** 〔精神医学〕
①Professor Emeritus of Psychiatry, Taipei Medical College
②第 4 回多文化間精神医学会
教育講演 Cross-cultural Adaptation: Taiwanese Students in the United States”
③'97.2.7～8
- Byung-Kun Min, M. D.** 〔精神医学〕
①Professor of Psychiatry, University of Ulsan
②第 4 回多文化間精神医学会
教育講演 Current status of transcultural psychiatry in Korea”
③'97.2.7～8
- Joe Yamamoto, M. D.** 〔精神医学〕
①Professor Emeritus of Psychiatry, UCLA Neuropsychiatric Institute
②第 4 回多文化間精神医学会 シンポジウム “Studies of Korean Americans in Los Angeles”
③'97.2.7～8
- Si Hyung Lee, M. D.** 〔精神医学〕
①Korea Institute of Social Psychiatry, Samsung Life Insurance Company
②第 4 回多文化間精神医学会 シンポジウム “Social Changes and Korean Identity”
③'97.2.7～8
- 岡崎 春雄** 〔脳神経外科学〕
①アメリカ、メイヨークリニック
②福岡神経病理セミナー講師
③'97.2.15～16

新刊紹介

- ①書名 ②発行所
- 宮内 亮輔** 〔解剖学第一〕
①解剖学実習テキスト (翻訳・分担) ②文光堂
- 山下 信哉** 〔解剖学第一〕
①プラクティカルマニュアル 手疾患保存療法 (分担) ②金原出版
- 三好萬佐行** 〔解剖学第二〕、
小川 皓一 〔解剖学第一〕
①人体組織学 3 脈管、血液・リンパ系 5.脾臓～赤脾髄 (分担) ②朝倉書店
- 池原 征夫** 〔生化学第二〕
①標準分子医化学 (分担) ②医学書院
- 岩崎 宏** 〔病理学第一〕
①病理キーワード'97 ②文光堂
- 岡田 光男** 〔内科学第一〕
①今日の治療指針 11.消化器疾患「胃ポリープ、胃腺腫、胃粘膜下腫瘍」 (分担)
②医学書院
- 木下 昭生、浦田 秀則、荒川規矩男** 〔内科学第二〕
①アンジオテンシン II 受容体拮抗薬のすべて (分担) 非古典的アンジオテンシン II 産生系とその病態生理的意義 ②先端医学社
- 古賀 学、荒川規矩男** 〔内科学第二〕
①目でみる臨床栄養学 (分担) 高血圧 ②医歯薬出版株式会社
- 荒川規矩男** 〔内科学第二〕
①患者と家族のための高血圧 Q & A ②ライフ・サイエンス
- 向野 賢治** 〔内科学第二〕
①起炎菌決定と抗菌薬処方マニュアル (分担) ②日本プランニングセンター
- 満留 昭久** 〔小児科学〕
①TEXT 小児科学 (分担) ②南山堂
- 満留 昭久** 〔小児科学〕
①Recent Advances in Clinical Neurophysiology (分担)
- 満留 昭久** 〔小児科学〕
①小児科学 (分担) ②医学書院
- 岡崎 正敏、東原 秀行** 〔放射線医学〕、
司城 博志 〔内科学第一〕
①Diagnosis and Treatment of Hepato-

- cellular Carcinoma (ed) T. Livraghi, M. Makuuchi, L. Buscarini (分担)
②Greenwich, Medical Media, London M. Makuuchi, L. Buscarini (分担)
- 岡崎 正敏、北川 晋二** 〔放射線医学〕
①標準放射線医学第 5 版 (分担) ②医学書院
- 池田 靖洋** 〔外科学第一〕
①消化器治療内視鏡の基本手技 (分担) ②金原出版
- 嘉数 徹** 〔外科学第一〕
①ベッドサイド消化器病学 (分担) ②南江堂
- 嘉数 徹** 〔外科学第一〕
①新外科学大系 追補 2 肝・胆・膵の外科、外科と分子生物学 (分担) ②中山書店
- 白日 高歩、岡林 寛** 〔外科学第二〕
①日本外科学会医学用語委員会 外科手術用語集 ②金原出版
- 白日 高歩、川原 克信、岩崎 昭憲** 〔外科学第二〕
①胸腔鏡アトラス ②金原出版
- 岡 一成** 〔脳神経外科学〕
①顕微鏡下手術のための脳神経外科解剖 IX (分担) ②サイメッドパブリケーションズ
- 緒方 公介** 〔整形外科科学〕
①変形性膝関節症の運動・生活ガイド運動療法

- と日常生活動作の手引き (共著)
②日本醫事新報社
- 大島 健司** 〔眼科学〕
①眼科診療プラクティス 27 巻 (分担) ②文光堂
- 有吉 朝美** 〔泌尿器科学〕
①ベッドサイド泌尿器科学、改訂第 3 版手術編 (共著) XII-2 尿管皮膚瘻術 ②南江堂
- 有吉 朝美、大島 一寛** 〔泌尿器科学〕
①新泌尿器科学、第 3 版 各論 1 発生と先天性異常 ②南山堂
- 有吉 朝美** 〔泌尿器科学〕
①泌尿器科診療 Q & A 腎静脈系の異常と腎出血 ②六法出版社
- 松永万鶴子、赤司 和彦、檀 健二郎** 〔麻酔科学〕
①図説最新麻酔科学シリーズ 2 巻 周術期管理 (分担) ②メディカル・ビュー社
- 益崎 隆雄** 〔救命センター〕
①食道・胃静脈瘤 (剖検例からみた食道・胃静脈瘤の形態と治療に変化) (共著) ②日本メディカルセンター
- 森園 哲夫** 〔筑紫病院 耳鼻咽喉科〕
①Operative Techniques in Otolaryngology ②W.B.Saunders, company Florida, U.S.A.

福岡大学医学会
第36回例会

日時…平成九年 月 十八日(水)

午後五時～六時半

場所…福岡大学医学部臨床大講堂

内容…

Ⅰ、優秀論文賞授与

1、上腕二頭筋関節唇複合体損傷に対する基礎的および臨床的研究
伊崎 輝昌 医 員 (整形外科)

2、「高齢の精神科入院患者の入院の長期化に関する研究」
―F病院における実態調査から―
米澤 利幸 助手 (精神医学)

Ⅱ、講演
1、優秀論文賞の要旨講演
講演者 伊崎 輝昌 医 員 (整形外科)

講演者 米澤 利幸 助手 (精神医学)

2、座長 緒方 公介 教授 (整形外科)
講演者 大慈弥裕之 助教授 (形成外科)

3、座長 有吉 朝美 教授 (泌尿器科学)
講演者 辻 祐治 助教授 (泌尿器科学)

4、座長 菊池 昌弘 教授 (病理学第二)
講演者 大島 孝一 助教授 (病理学第二)